

# ヒロシマ修学旅行に向けた

# 平和学習の取り組み

和 澄 利 男



## 一、ヒロシマに向けて

新津五中では修学旅行を二年生で実施している。その目的地を二〇〇一年度より、東京方面から広島・大阪方面に変更した。

その理由は、二年生の「総合学習」を「平和学習」とし、その体験学習の山場をヒロシマ修学旅行にしたと考えたからである。平和学習では、生徒たちが暮らしている新津と広島、私たちが生きている現在と過去そして未来を、それぞれ結びつけ、平和な社会や世界の実現に向けて、自分なりの提言や決意表明をすることができるところを目標にした。

## 私たちの伝えたいこと

今どこかで傷つけあっている人々がいる  
幾千の罪のない人たちの命の灯が消えてゆく  
私たちにそれを止めることはできないけれど  
その人たちを想い歌うことならできるとは  
一人の小さな歌声も みんなで歌えば  
いつかは大きな力になることを  
私たちは知っているから  
私たちの歌に込められた思いには  
どんなことがあっても

消すことができない希望の光があるから  
光があたれば影のできるこの世界だけど  
妨げるものがなければ

きっと世界は光に満ちてゆく  
私たちの胸に在る  
白鳩が掲げた「平和」を  
今こそ 飛び立たせよう

「私たちの伝えたいこと」製作委員会

広島平和公園で行った「平和セレモニー」で生徒達が詠み上げた「平和宣言文」

二年生での平和学習がスムーズに進められるように、一年生時から徐々に生徒の「心の耕し」を始めた。修学旅行までのいくつかの取り組みの様子を紹介したい。

## 二、一年生での取り組み（二〇〇〇年度）

### (1) 8月を学ぶー1

夏休み前に、学年だよりを発行したり、生徒一人一人が戦争と平和についての課題を決め、テレビ、新聞など様々な方法を用いて調べ、レポートにまとめるように働きかけた。

ほとんどの生徒は、新聞や図書を読んだ感想やテレビやビデオを見たりした感想を書いたり、インターネットなどをを使って調べたことをまとめたりすることができた。

始業式に学年代表として夏休みの感想発表した生徒は、次のように述べた。

「この夏休み一学年では、『八月を学ぶ』という課題がだされました。私は、新聞に載っている記事を使って、原爆について調べてみました。その記事のほとんどには、『核のない二十一世紀にしよう』と強く書かれていました。

私はこの夏休みを機会に、原爆について今まで知ら

なかった事を学び、あらためて『戦争や核』は二度とおこしてはいけないと感じました。これからも、このような自覚をしっかりと持っていきたいと思います」。

また、新津市が公募した「非核平和研修」で広島を訪れた生徒は、次のようにレポートを結んだ。

「私は、今回広島を訪れて、原爆の恐ろしさを思い知らされました。世界には、こういった核兵器を所持している国があります。もう二度と、繰り返してはならないことなのに、このままでは人類滅亡にもなりかねません。広島での、数十万の人の死をむだにしないためにも、私たちは少しでもたくさんの人に、原爆の恐ろしさを知ってもらいたいと思います。平和は、他人がつくってくれるものでなく、私たちがつくっていくものだから」。

### (2) 新津市の市民憲章、非核平和都市宣言、非核平和モニュメントの学習

冬休みの課題は、祖父母や両親など身近な人から、「新津について」聞き取ることを課題とした。何人かの生徒が、戦争当時や戦後の復興当時の新津について、レポートを提出した。

それらのレポートを手がかりに、自分たちの住んでいる新津市の平和活動に目を向けると同時に「ヒロシ

— <新津五中 1学年だより こんぺいとう No. 15より> —  
夏休みにみんなで“8月を学ぼう”

—平和について考えよう—

最初にこの詩を聞いてください。

ひとつの世紀が過ぎようとする  
わかれ目にわたしは生きる

おおきなページがめくられる  
その風を感じる  
神ときみとわたしが書きしるし  
みしらぬ手の中で  
たかだかとひるがえる  
ページの風を

我々はどこから来たのか？  
我々とは何か？  
我々はどこへ行くのか？

リルケの詩集より

この詩は19世紀の終わりに、リルケという詩人が書きました。それから100年、20世紀が過ぎようとするわかれ目に、今私達は生きています。あと5カ月で歴史の1ページをめくります。

この詩の最後の三行にあるように100年前の人も、その前の人も、々々、ずっと人間は考えながら生きてきたのだと思います。この三行の内容を私は、次の様に受けとめています。

私達は、どんな道をとおり、今、どこにいるのか。これからどこへ行こうとするのか

言いかえると

過去の歴史と現在のようすを、すじみち正しく知り、これからどんな未来を創ろうとするのか、学び、考え、自分（達）ができることをする ということです。

そして、未来を創る主人公は、あなた達、私達なのです。

さて、私達や、父母や祖父母やひいじいちゃん、ばあちゃんが生きたこの100年は、残念ながら、とても大きな戦争を何回もこの地球上でやってしまいました。多くの人達の命を人間の手でうばう戦争でした。逆から見れば、本当は“平和”を願ひ続けてきた100年ということです。その実現のために、現在も努力が続けられています。

そこで、平和をキーワードに、一年中で一番この事を学ぶチャンスの多い夏休みに全員で学習しましょう。タイトルは“8月を学ぼう”です。まずは、過去の歴史と現在の様子を知ることから始めましょう。これを第一歩として平和学習は続きます。資料や取り組み方法については、各学級担任から話があります。自分のできる範囲で、まずやってみましょう。

小学生でない、中学生の夏休みの課題です。

マ」「核」と視野を広げるような学習を行った。

具体的には、新津市の市民憲章、非核平和都市宣言の内容、核の時計（核戦争による地球破壊の時刻を午前零時とし、針の動きで核の危険を警告するもの）を組み込んだ平和モニュメントについて学習した。

その後、非核新津市民の会事務局長の渡部貢さんから、新津の「非核・平和モニュメント」が多くの市民の募金で建立された経過などについて講演していただいた。

### 三、一二年生での取り組み（二〇〇一年度）

#### (1) 遠足での平和セレモニー

春遠足（⑤②実施）では、平和モニュメント・核の時計を自分の目で確かめ、新津市民として平和を考えることを目的の一つとして、新津市役所前の非核平和モニュメントの前で、平和セレモニー（非核平和都市宣言の群読と、平和に関する歌「高くかかげよ」の合唱）を行った。

遠足後に、次のような感想を書いた生徒がいた。

「平和セレモニーで、今まで疑問だった『核兵器は何のためにあるのか』という答えが、大量殺人のためだということ、とてもこわい目的のためだったということ

が分かりました」

「新津の平和への誓いを新たにすることで、これからの私の気持ちの持ち方が変わりました。遠足はとってもこれからの修学旅行に役立てると思えました」

#### (2) 「ヒロシマを学ぼう」

六月一八日（月）から二二日（金）に毎日一時間ずつ「ヒロシマを学ぼう」授業を行った。

このような平和学習を続けている最中に、新潟日報「私も一言」欄に、「平和を思う精神いつまでも」と題した投書が載った。子どもたちと続けている「平和学習」が、人の心に伝わっていくことをうれしく思うと同時に、この学習は価値ある事と再確認した。

#### (3) 県内在住の被爆者の方の体験談を聞く会

##### の実施

「ヒロシマを学ぼう！」の学習を終えた後、「ヒロシマ」は遠くでないことを分かってもらいたくて、新津・新潟周辺に在住の三名の被爆者から体験談を聞く会を行った。

ある方は広島から帰るとき、ただ一つ持ち帰ることのできたお守りを見せてくださった。初めて家族以外に見せたとのこと。それまで、淡々と話されていたのに、言葉に詰まり涙を流され、それでも気持ちを立て

なおして話を続けようとする姿に、生徒たちは声もな  
く真剣に話を聞いていた。三人の方とも、自分たちが  
体験をなぜ話すのか、未来ある中学生としてどう生き  
てほしいかという願いで話を終えられた。

ある生徒は、次のようにお礼の言葉を述べた。

「お話を聞いて、一瞬にして全てを破壊してしまっ  
て原爆が、本当になくなってしまえばいいと思いまし

た。私たちは実際に広島へ行って、原爆ドームを見た  
りして、より深く原爆や戦争の恐ろしさを知ることにな  
ると思っています。このとき、また『非核平和都市宣言』  
をするらしいのですが、私は春の遠足の時のように、  
ただ単に読むだけでなく、一人ひとり、本当に戦争  
の反対、核兵器の完全撤廃を心から願って、胸をはっ  
て宣言できるようになったらなと思います」。

ねらい

教師の働きかけ(指導案)

生徒の反応など

ヒロシマを学ぼう！ 1  
◎ビデオ「にんげんをか  
えせ」を通して、ヒロシマ  
(二空襲、ハ六)の事実を知るこ  
とができる。

・修学旅行で広島を訪れます。広島  
で私たちは学ばなければ(知らなけ  
れば)ならないことがあります。  
それは「ヒロシマ」です。  
・ビデオ「にんげんをかえせ」を見  
て、「二空襲、ハ六の日本(広島)で起き  
た事実を知ってもらいたい。  
ワークシート「にんげんをかえせ」  
に感想・気づき・疑問などをまとめ  
てみよう。  
・平和学習の必要性に触れる話をす  
る。

・何でヒロシマ、と書くのか→外圍  
の人にもわかるように！とすぐに答  
えが出た。  
・資料「原爆体験をどう読むか」の  
音読  
・ビデオ↓しっかり見る。  
・感想↓静かに黙々と書く。  
漫画で見るとそうでもないな  
と思うことが、本当の映像を見  
て、当時の様子がよく分かった。  
原爆を作ること自体が許せない。

ヒロシマを学ぼう！ 2  
◎資料を通して、ヒロシ

・今日は「五〇数年前のその瞬間」  
を読み、「二空襲、ハ六に起きたことを振

・資料「五〇数年前の瞬間」を黙読  
する。

<p>マの歴史的事実を知る。</p>	<p>り返ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業は、なぜ原爆がつけられたのか？ なぜ広島に投下されたのか？ その理由を考えます。</li> <li>・日本はなぜ戦争をしたと思いますか。↓資料提示</li> <li>・なぜ、アメリカは敗戦間近な日本に原爆を投下したと思いますか？</li> <li>↓資料提示</li> <li>・なぜ、広島に原爆を投下したと思いますか？ ↓資料提示</li> <li>・悪魔の兵器である原子爆弾がどうして作られ、投下されるまでのことを資料で説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ日本は戦争をしたのか」資料を読みながら確認する。</li> <li>←</li> <li>「世界全体が不景気なんて」「日本も植民地を広げようとしていたんだ」</li> <li>←</li> <li>「(地図を見て)すごく広い範囲に戦争を仕掛けていたんだ」</li> <li>・資料「なぜ原爆を投下したのか」を読みながら確認</li> <li>←</li> <li>「戦争を終わらせるためだけじゃないんだ」「世界の中で優位になりたかったのか。ひどい」「実際の威力をためすなら、日本でなくてもいいじゃないか」</li> <li>・「なぜ広島に投下したか」と資料で確認</li> <li>←</li> <li>「候補地に新潟も入っていたのは驚いた」「爆発効果を確認しやすかったからとはひどい」</li> </ul>
<p>ヒロシマを学ぼう！ 3</p>	<p>・井伏鱒二原作の『黒い雨』を見て、</p>	<p>・科学的に原爆の被害が分かる映像</p>

◎資料や映像を通してヒロシマの科学的事実を知る。

あの日のことを想像してください。  
・『黒い雨』を見て、原子爆弾には三つの恐ろしい力がありました。それは何ですか？ワークシートに記入しよう。

・三つの恐ろしい力を説明した資料があります。みんなで読みながら、確認していこう。

・次に、このような恐ろしい原子爆弾について学習します。

1 広島に落とされた原子爆弾の大きさは？

2 原子爆弾の中身は何か？

3 なぜ、あのような恐ろしい力が生まれたのか？

などの、発問をする。

・「劫火に焼かれて―あの何が―」の資料提供。

として「黒い雨」を観る。(実写でないことを知らせる。)

生徒は早く見たいという雰囲気

「あっ、黒い雨だ」という声も

・パラシュートをつけて投下される

原爆\*の部分を見て大きな反応。映

像を止めて確認する。

←

思ったより小さいとかこんな風に落ちてきたのかとか。

爆発の瞬間、思わず大きな声が出る。

「ワー！」

「黒い雨ってにおいがあるの？」

「どうして洗っても落ちないん」

・どのくらいの大きさだったのかな

↓資料を見て感想いろいろ。自分の

身長をもとに、二倍とか。

・その原爆の三つの威力は？

←

①ピカ熱線 ②ドン爆風 ③目に見えない放射能

死の灰、黒い雨

・それぞれの人体に及ぼす影響をまとめる。

<p>ヒロシマを学ぼう！ 4          ◎資料を通して、原爆で          被爆した人たちの生き方を          知り、平和の尊さに気づく          ことができる</p>	<p>・原爆で一番被害を被ったのは、誰          だったか？          ・資料を提示し、実際の数値で、子          どもの犠牲者の多さとともに、原爆          のもたらした悲しみ・むごさを実感          させる。          ・千羽鶴に願いをこめた一人の少女          (佐々木禎子)の生涯を資料を通し          て、そのエピソードを紹介する。          ・禎子さんの折鶴にこめた願いは何          だったのだろうか。禎子さんのこめ          た願いを考えたり、自分自身の願い          をこめて折鶴をつくろう。          ・六月三十日(土)の講演会の趣旨を          確認するとともに、学級で各班ごと          に、被爆体験談の編成(グループ分          け)をしよう。</p>	<p>質問と同時に答えが返ってくる。</p>
<p>・生き残った子どもたちの中でも後          になって、原爆症で死んでいった代          表としてサダコを学ぼう。          ・あらすじを追って、教師が読み聞          かせをする。シーンとしてサダコの          状況に思いを寄せていたようだ。          ・SADAKO を読みたい。訳したい。          原爆の子の像を見たい。初めて聞い          た。一〇年も経ってから……せつか          く生き延びたのに、戦争がなければ          こんなことはない。          ・どんな気持ちで鶴を折っていたん          だろうかな？</p> <p style="text-align: center;">←</p> <p>こんな小さな紙でおっていたん？          葉紙ってこのくらい？ 折れない子          も折ろうとしていた。きれいに折れ          ないな。しばしにぎやかになる。          「お話しを聞く会」のグループ分          けをする。↓え、広島からくるん？          新津市にも新潟市にも被爆者がいら          っしゃることにはびっくり。</p>		



ヒロシマを学ぼう！ 5

◎ビデオ「母たちの祈り」を通して、「ヒロシマを学ぼう！」を振り返り、まとめることができる。

授業を終えての教師の感想

・ 今回の五回にわたる授業の構成はよかった。

・ 三本のビデオ「人間をかえせ」

「黒い雨」の冒頭「ヒロシマ・

母たちの祈り」は大変有効だった。

・ 平和学習の内容の方向性を学年で確認しつつ進めたと思う。

・ 教師側の準備、事前学習は、担任のやれる範囲を超えていたと思うが苦勞したことは終わってみると、先生方の力に変わってきていると感じる。しかし、来年はクロスカリキュラム等対策を講じていかないと、とても平和学習は長続きしないと思う。

・ ちゃっとしたことで見聞気が崩れてしまうので、細心の注意を払って、子どもたちの心に入っていくための工夫が必要だと

痛感した。

・ 二二日新聞の投書欄に載った皆の平和学習に対する意見を知らせる。

↓・今日の新聞なの？ ・どうしてうちだって分かるん。

・ 遠足時の平和セレモニーの新聞記事が世の中に伝わっていることを知る。

↓自分たちもこれに対して、また、考えることを伝える方法もあるね。

・ 今週の平和学習「ヒロシマを学ぼう」のまとめとして、ビデオ「ヒロシマ・母たちの祈り」を観ます。↓私語も物音もなく、じっと観ていた。

・ 感想をまとめよう。この一週間の中で学んだこと含めてもいいです。

↓観たあと落ち着いた見聞気の中で一生懸命感想を書いていた。

#### (4) 8月を学ぶ―2

##### ―ヒロシマの被爆から復興まで―

一年生時に引き続き、「八月を学ぶ」を夏休みの課題とした。今回は、一学期の総合的な学習の時間で学んだ「ヒロシマ」のことをふまえて、「広島（ヒロシマ）」「核」「生き方」をキーワードとした平和新聞を作成させた。

平和新聞の「保護者の方からの感想欄」には、親からもコメントが多く寄せられた。

「私も二〇年前に広島に行きました。平和公園に立ちガイドさんから説明を聞いたとき大変な場所にいるのだと、初めて実感しました。笑っていられない感じでした。そのとき撮った記念写真はみんな真剣な表情をしています。事前にいろいろ学習している我が子はずっと深く感じるものがあると思います」。

「終戦から五六年度。戦争を知らない私たち親でも、戦争の悲惨さ、すごさ、原爆の恐ろしさを、本や人からの知識でしか知らない世代になってきています。あらためて戦争の愚かしさ、怖さを子どもたちが一つでも多く知ってもらえれば良いと思います」等々。

#### 四、広島での学習

事前の平和学習を終えた二年生は一月五日～七日に広島・大阪方面の修学旅行に出かけた。

広島では、一日目の午後に沼田鈴子さんから「被爆アオキリ」の話を聞いた。二日目は平和公園で「平和セレモニー」を実施したのち、平和資料館見学と平和公園内やその周辺部での碑めぐりを行った。

旅行文集に、次のような文を載せた生徒がいた。

「一年生のときから続けてきた平和学習。その集大成が、この修学旅行です。（中略）平和学習を通して。私たちは、未来を背負っていかなければなりません。その未来が平和になるかどうかは、私たち次第です。全世界が平和になるようにがんばっていきたいです」。

#### 五、おわりに

##### ～蒔かれた「平和の種」～

一年生のときから今回の「平和学習」を進める中心となった教師は、修学旅行後、次のように書いた。

二一世紀が平和に向かって進んでいく歴史になるように、そして我々もそれを担う一人になれる

ことを願って一年生の時から平和学習を進めてきました。

その学習の山場、ヒロシマ修学旅行の直前にアメリカで起きた同時多発テロ、アフガニスタンへの空爆……。多くの命が失われ、難民が生まれている中で私たちはヒロシマの地に立ちました。

「今学習していることを、新しい戦争に突入しようとしているこの情勢とどう結びつけていけるのだろうか。この学習は平和への希望を支えるものになるのだろうか」という気持ちが、私の心を重くしていました。

でも、平和セレモニーで、「私たちの伝えたいこと」が平和公園の空に響いたとき、私は「ああ、皆のいうとおりだな」と実感しました。「今、自分にできることをすること」の大切さを皆の言葉から、あらためて学びました。

真剣な顔、見つめる眼差し、鶴を折る指先……それだけではなく、飛行機が離陸、着陸するときの歓声、友だちとおしゃべり、U S Jでのくったくのない笑顔……。学ぶときにも、楽しむときにも「平和の種」は皆の心に蒔かれたと信じます。

そして、修学旅行後も平和学習は続いた。三学期には、地球の住人として、視野を広げる学習を行った。

①核廃絶と平和に向けた世界の動きや活動を知る授業

②「世界が100人の村だったら」を使った授業

③海外青年協力隊に参加した人、J I Cでボランティアをした人を招いて、お話を聞く会

体験談をお聞きしたあと、一年半の平和学習で学んだことを、一人一人まとめた。三名の生徒の感想文を紹介する。

「平和というのは、一言では表せないほど難しいものだと思う。ぼくはこう思った。平和というのは、みんなが平等で楽しく過ごすというのだけではないと思う。かといって、原爆や兵器をなくすだけというのも違うと思う。僕の考えはこの二つも大事だけど、一番大事なのは『みんなが手を取り合って助け合う』ということだと思う。多分これは、前の二つよりも簡単そうだけど。一番難しい問題だと思う。いや、人間にとって一番の難問と言ってもいいと思う。でもこれが実現しないかぎり、平和はこないと思う」

「一年生からずっと平和学習を続けてきて、今まで分からなかったことを知ったり、知っていたことも深く学べたと思う。講演会で、いつの間にか寝ちゃった

こともあったけど。でも平和学習は自分のためになつた。いろんな話を聞くうちに、『こんな事もあったんだなあ』と思いました」

「つい最近のことで、原爆の子の像の鶴が燃やされたり、記念碑に赤ペンキがかけられたりしたニュースがあったときには、やった人に対して怒ったりしたけど、もし平和学習をしていなければ、きっと気にしなかったと思う。九月一日のアメリカのテロのことだつて、人ごとのように思えなかった。今までは、外国の内戦・外国の出来事など、何も関心もなかった普通のニュースとして見ていたけど、今は真剣に考えるようになった。戦争に関することだけでなく、平和学習を生かし、いろんな事を真剣に考えられる人間に変わっていきたいと思う」

「僕は、世界一平和で豊かな日本に生まれ、死と隣り合ったり戦争に巻き込まれたりもせず育ってきました。そのせいか、長いこと平和学習をしてきたけれど、いくら知識を詰め込んでも、原爆で死んでいった人をおかしいと思うても、平和の尊さを実感することはできませんでした。あれほど戦争について学んだはずなのに、心とはなかなか変わらないものでした。でも、戦争について学んだことは誇りに思っています。これ

からも平和ボケしながらも、感じたり考えたりしたいです。

でも、日本の植民地支配にフタをし、さらに美化、しょうがないものとし、『日本はアメリカにひどいことをされたんだ』ということだけを教える平和学習は間違っていると思います。戦争責任もすべての日本人が悪かったわけではないということも当たり前です。もっと、植民地支配を学ばなければ、朝鮮半島や中国人、東南アジアの人に失礼です。日本人がどんな卑劣なことをしたか、学んでいかなければならないのです」

平和学習を通して、子ども自身が自分の生き方を見つめる力を見つめる力も育っているのだと嬉しく思う。

\*この文章は、平和学習を取り組む中で出された指導計画と授業案や生徒レポート、またこの間発行された「学年だより」「総合学習だより」などをまとめたものです。

(わすみ としお・新津第五中学校)